

業種名		前年同月比				業種名		前年同月比			
		売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況			売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況
食料品製造業	漬物	↓	↓	↓	→	卸売業	肥料	↓	↓	↓	↓
	醤油・味噌	→	→	↓	↓		◎卸団地(津)	↑	→	→	→
	豆腐	→	→	↓	↓		◎商業(鳥羽)	→	→	→	→
	麺	→	↓	↓	↓		◎青果(松阪)	→	↓	↓	↓
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	↑	→	↓	→	小売業	自転車	↓	↓	↓	↓
	衣料縫製	→	→	→	→		家電	↓	→	↓	↓
	テントシート	↑	→	→	→		石油	↑	→	↓	→
木材・木製品	↓	↓	↓	↓	スポーツ用品		→	→	→	→	
紙・紙加工品	段ボール箱	↓	→	↓	↓	商店街	◎熊野市	→	→	→	→
	古紙	→	→	↓	→		自動車整備	→	→	→	→
印刷	→	→	↓	→	サービス業	宿泊施設	↓	→	→	↓	
窯業・土石製品	生コンクリート	↑	→	→		→	旅行業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	→	→	↓		↓	◎飲食業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	→	↓	↓		↓	警備業	↑	→	→	→
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	→	→	→	↓	建設業	総合工事業	↓	→	→	→
	◎機械器具(四日市)	→	→	→	↓		内装工事業	↑	→	→	↑
	◎機械器具(久居)	↑	→	→	→		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	↓	→	→	↓		◎水道工事業(四日市)	→	→	→	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	↑	→	→	→
	◎輸送機器(鈴鹿)	↓	→	↓	↓		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成27年2月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	醤油味噌	原材料の価格が上がり、食品関連商品の値上げ発表が続いている中、味噌は一部値上げをしたところもあるが、醤油は値上げの様子は無く依然として厳しい状況である。また、小学校への「しょうゆ出前事業」の食育継続やイベントで活性化を図っている。
		豆腐	津市において組合員が1軒自己破産を申請した。
	木材・木製品	木材	消費税増税による反動減が依然として続いているが、国の進める住宅エコポイント制度や住宅補助制度に期待している。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	昨年の2月は消費税増税前の駆け込み需要があったが、本年はその売上をカバーできなかった。
		古紙	2月期の仕入量は、前年比段ボールは約98% (増減4%前後)、新聞・チラシは約94% (増減3%前後)、雑誌等その他合わせて約93% (増減5%前後) といった中での推移である。マイナス傾向の意見が多数であった。2月は雨やみぞれの天候でかなり集荷に影響されたように思われる。集荷量があり古紙輸出が出来れば、経営的に少しは救われる。経済産業省からアンケート調査があり、少子高齢化と人口減少、消費活動の変化に関するものであったが、紙の消費減も変わらない。国産原紙の値上げが社会に受け入れられ、貨幣も商品も更に活発に末端まで流通すれば、アベノミクスの完遂と思われる。なお、古紙の持ち去り行為が多発しており、回収された荷物は輸出されていると推測されるため、市民の安心・安全で健全なリサイクル活動が妨げられている。
	印刷	印刷	メーカーの印刷用紙価格値上げに伴い、卸売価格も10%以上値上げされた。価格転嫁をしなければ利益減となる状況である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	BS放送で伊賀焼関連の番組が再放送されたことにより、伊賀焼伝統産業会館では来館者及び売上は昨年を大きく上回った。しかし、伊賀・信楽古陶館では昨年を下回った。一部の土鍋やおひつを製造する蔵元ではまだ好調が続いている。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、全体的に1月と比べ減少傾向にあった。これはやや好調であった自動車関連部品の加工がここに来て減少したこと、ガス機器等も生産のピークを終えたこと等が要因であると考えられる。半導体関連は1月同様増加傾向にあり、当面はこの状態が続く見込みである。収益面では円安による原材料の値上げ等が影響して若干の減少は見られるものの、原油価格の下落等があり悪化までは至っていない。
	一般機器	北勢	株価18,000円が高いのかどうか。今月に入って諸物価が値上げされる。仕事はあるが利益がなかなか得られない。一部の大手企業は大きな利益を上げているものの、中小企業は依然厳しい。
		中勢	原材料の高騰に伴い、価格転嫁に苦しんでいる。
電気機器	南勢	26年度末の受注は昨年に比べ2%から3%増加の状態推移している。ただし、受注価格は厳しくアベノミクスの対応と逆行している。	
輸送機器	北勢	前年同月は消費税増税前の駆け込み需要で残業・休日出勤フル稼働であったが、昨年4月の消費税増税以降未だに低迷が続いている。この4月にもエコカー減税の基準厳格化や軽自動車税の税率変更などが控えているが、比較的軽微なものであり駆け込み需要には至っていない。	
非製造業	小売業	肥料	昨年作の米価の下落(30%安)による反動が今月に大きく現れている。また、高齢化による米作りの中止と生産費低減に伴う肥料の買い控え等のため安売り競争が激しく、販売量及び販売価格が低下している。
	小売業	青果	前半は冷え込みによる生育不良でレタス・ほうれん草等の葉物は高値で推移したが、大根等は安い。後半も前半同様入荷が少ないが、ジャガイモは北海道産に加えて九州産の新物の入荷が多くなり、人参も豊作である。果物は青島みかん等柑橘類の種類も豊富で味も美味しく、イチゴは前半は高めであったが、後半は入荷量も多く低価格となっている。
		自転車	春需を迎え、商品の動きが一番活発な時期となった。しかし、どの組合員も今一つ売れ行きが悪いようである。値上がり商品もさることながら、中学入学者数の減少は企業努力だけでは無理である。例年は県全体で年間8万台の売り上げを推移していたが、約1万台の減少になると予測している。3月末までに登録台数をどこまで伸ばせるか、残り一か月各店・メーカー共々必死の状況である。

非製造業	小売業	家電	増税前の前年と比べると2月も大きく減少しており、特にテレビや冷蔵庫等既存商品の落ち込みが大きい。店舗の活動としては、点検活動を柱とした総顧客訪問を積極的に展開している。また、販促においても従来の商品ではなく、リフォーム関連商品にシフトした展示会を実施している。商品群としては、太陽光発電、システムキッチン、アラウーノ(便座)、バス(風呂)、階段昇降機、HEMS(住宅用のエネルギー管理システム)等新規商品への取り組みを強化している。
		石油	2月の燃料販売数量の状況は前年対比で同程度の状況であったが、原油価格が先月に比べて10ドル前後の値上げのため、燃料油の仕入価格が値上がりしてきており、各給油所においては前年対比の販売数量を維持するため、思うように値上げを行えない状況が続いている。先月から好調な灯油についても今後は寒さを期待できない季節になってきている。3月については、車検整備点検をメインに重点的に販売展開を行い、収益の向上を期待したい。
		スポーツ用品	組合員は春の売り出しの準備に精を出している。
	商店街	熊野	今月開催された商店街のグルメイベントは、熊本県からマスコットキャラクターを招き、熊本県の物産販売も含め開催した。集客は時折小雨降る曇天にもかかわらず、従来のイベント時より2倍強の集客となった。熊本県の物産ブースも全て完売、また、既存出店業者もほぼ売上増になったようである。知名度もあるキャラクター人気はやはり集客に繋がる結果が良く分かった。
	サービス業	自動車整備	後継者不在、事業転換等による廃業の相談が増えてきている。
		旅館	月初は天候不順が続いたためか予約が伸びず、このままでは前年同月よりかなり落ち込むと予測されたが、中旬から月末にかけて予約が大きく伸びたためやや減少程度にとどまった。しかし、中旬より始まった中国の春節休みで来日した旅行者で、ゴールデンルートに沿った地域は大賑わいであり、近県においても岐阜県等の大型旅館は中国、台湾の国旗を玄関に掲げている状況を見るにつけ、インバウンド(訪日外国人旅行者)の誘客に注力することが必要であると痛感した。
		飲食業	政府が進める「まち・ひと・しごと創生戦略」において、地域の活性化を図るためのプレミアム付き商品券が発行されることとなった。組合においても、組合員が登録店にもれないよう周知することとしている。消費拡大のチャンスと組合非加盟店との差別化を図るためにも、市町と連携を図りながら事業の後押しをしていくところである。
		警備業	受注はたくさんあるが、警備担当職員の人員不足のため売り上げ増にならないのが現状である。
	建設業	総合工事業	今年度は補正予算による発注が少ないため、2月の売上高は対前年比約10%減となったが、公共工事設計労務単価の引上げ等により、経常利益率は改善の傾向にある。
		内装工事業	1月は対前年比較において減少となったが、当月は増加となった。年度末に向けて売上等は上昇する見込みである。
		水道工事業(四日市)	年度末が近づき多忙な状態が続いており、来月もこの傾向が続くと考えられる。
	運輸業	トラック	燃料価格に上昇傾向がみられ、先行きを注視しなければならない。荷動きについては自動車関連の景気が悪い状況である。

### 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
紙・紙加工品	古紙	持ち去り行為防止の市条例による取り締まりで罰金刑を受けた者もいるが、裁判中でも反省は無く「罰金を払っても持ち去り行為をやめない」と言い放ち、未だに持ち去り行為を続けている。車を停止させ注意勧告書を手渡そうと試みても、車を止めずに赤信号を利用して走り去ってしまう。県の条例化と警察の協力を要望する。
製造業	北勢	倒産は減少しているものの、中小業者の中で自主廃業する企業が増加している。政府はこのことをどう考えているのか。
	南勢	企業のベースアップについては、その企業のベースアップの原資を含む財務体質によるところが大きく、企業間(何兆円もの利益が出ている企業・赤字企業・大企業・中小零細企業等)によって対応が違ってくるのが当然であるため、一律対応できるものではないのでその点は理解して欲しい。
サービス業	旅館	インバウンドの誘致に向け、官民挙げて取り組む必要がある。近県との連携、その他山積している課題をそれぞれの立場で解決するよう努力するべきである。特に、岐阜県の観光施策等を参考にしたい。